

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
1	H29.7	<p>・活動そのものは地域が中心となり活動しています。行政は補助金を出して支えるという構造になっていると思います。地域が様々な行事を作り出せるだけの支援ができていますでしょうか？</p> <p>補助金がカットされて活動が縮小されたと聞くことがあります。これでは地域の活動が少なくなり地域に住む方とのコミュニケーションの場も少なくなり、良いつながりができないのではないかと思います。</p> <p>・区全体で行うイベントを優先するのか、地域の小さいイベントを中心にコミュニティ作りをするのかと考えた時に、まず地域のイベントで地域のつながりを強化できてこそ活性化するのはないかと考えています。</p>	<p>・現在、本市では地域活動への補助金として地域活動協議会補助金を予算化しているところでございます。 大阪市の財政状況が厳しい中、地域活動協議会補助金につきましては減額せずに確保しているところでございますのでご理解賜りますよう、よろしくお願いたします。</p> <p>・各地域では、補助金を活用し、地域のおまつりや高齢者食事サービス、もちつき大会、ふれあい喫茶、地域清掃、運動会などそれぞれ工夫を凝らした様々な地域活動を展開されております。</p> <p>引き続き地域活動協議会の補助金をこういった地域活動にうまく活用いただくことで、地域の活性化につなげていただければと考えております。</p> <p>・これまでの取組みは、委員ご指摘のように身近な単位での活動支援に十分意識が向いていなかったことが課題であると認識しております。地域の活性化に向け、身近な単位での人と人とのつながりづくりの取組への支援について、検討してまいりたいと考えております。</p> <p>【具体的取組1-1-1 地域に根ざした活動への支援】の取組内容に反映</p>	①②
2	H29.7	<p>・中間支援組織が、区役所、地域どちらの負担軽減にもなっていない。区役所と地域が直接関わりを持っていた時代以上に負担がかかっている。</p> <p>地域運営は、仕事をもっている人たちが時間・労力を出し合って行っているものであり、自律的な運営には限界がある。時間・労力を出してくれる人の発掘を地域のみ任せるとはならず、行政も積極的に関与していくべきである。</p> <p>中間支援組織は行政ではないので新たな発掘は難しい。</p>	<p>・中間支援組織はこれまでも、各地域の自律的な運営に向け、様々な支援を行ってきたところです。 引き続き、エリアによって地域の課題が大きく異なる実情を踏まえ、より地域の実情に応じた支援にむけ、地域の皆様と意見交換をするなど地域課題の把握に努め、中間支援組織のあり方も含め地域、区役所、中間支援組織の役割分担について検討してまいりたいと考えております。</p> <p>・地域の担い手作りは重要な課題であると認識しております。まずは裾野を広げるため、地域団体の活動情報を発信していくことで、地域活動への住民の方の参加を促してまいります。</p> <p>【具体的取組1-1-1 地域に根ざした活動への支援】 【具体的取組1-2-1 地域活動協議会への支援】の取組内容に反映</p>	①②
3	H29.7	<p>・マンション内のコミュニティづくりは誰も必要だとは思いますが、では具体的にどうすればよいのか、どういう状態になればよいのかははっきりとは理解できていないと思います。</p> <p>一方で、西区は9割がマンションということは、マンションのコミュニティづくり、活性化が西区の最重要課題と考えます。</p> <p>提案として、以下のことを区役所が例示して区役所のサポートの元、マンション内のコミュニティ作りをサポートしていただきたい。</p> <p>①マンションなどのコミュニティは、なぜ必要か？（実は皆なんとなく必要と感じているが、必要性を他人に説明できない） ②目標の状態を例示する。（具体的にどんなことがあれば「コミュニティづくり」ができていると言えるのか）また、どういう状態であり続けるべきか。 ③具体的な方策・・・他のマンションの事例も含め、コミュニティ作りのために、具体的に何をすればよいか ④課題・・・他者事例で、どんな課題があって、どう解決したか。また、どんな課題が残っているか？</p>	<p>・マンションにおけるコミュニティ形成の取組みは、居住者間の交流・親睦だけでなく、防犯・防災活動、環境美化活動といった、日常生活をめぐる課題への対応として行われることが多いと思います。</p> <p>西区では、マンションでのコミュニティづくりを支援する方策として、防災出前講座やマンション集会室での子育てサークル「にっしー広場」など、マンション内での日ごろのつながりが必要な課題に重点を置きながら進めています。</p> <p>防犯・防災対策は、日ごろからご近所の方たちとあいさつをするなど、コミュニケーションを通じて、いざというときにお互いに助け合える関係を築いておくことが大事です。</p> <p>防災出前講座などを通じてコミュニティの必要性を認識していただくことにより、自主防災組織の結成、地域との連携につながるよう、啓発に努めてまいります。</p> <p>また、他の事例についても情報収集し、提供できるよう努めてまいりたいと考えております。</p> <p>【具体的取組2-1-2 マンションコミュニティづくり(防災)】 【具体的取組3-1-4 マンションコミュニティづくり(子育て)】の取組内容に反映</p>	①②

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
4	H29.7	<p>・「にっしー広場」について、地域によるのでしょうか？マンションがかなり増加し、人口も増えてきましたが、身近には「にっしー広場」はまだまだどこでどのように取り組まれ交流されているのか？</p> <p>・情報が少ないのではないかと感じております。</p>	<p>「にっしー広場」はマンション内での仲間づくりをサポートするとともに、地域の子育て支援サークルとの交流を支援させていただき事業として、ご希望されるみなさまからの申請に基づき、実施可能なスペース(集会室等)をお持ちのマンションに職員が出張し、未就学・未就園児と保護者の皆さまに、遊びや子育て相談などを提供させていただいております。</p> <p>皆さまへの周知方法としては広報紙やホームページ・フェイスブックへの掲載のほか、事業対象者の皆さまが参加される、乳幼児健診などにおいてチラシの配布などの取り組みを進めているところです。</p> <p>今後も引き続き、広報紙やホームページへの掲載はもちろん、保護者の方々への情報発信により、より多くの皆さまに参加していただけるよう、周知に努めて参ります。</p> <p>【具体的取組3-1-1 こども相談支援・子育て情報発信による子育て支援】 【具体的取組4-2-1 戦略的な区の情報発信】の取組内容に反映</p>	①②
5	H29.7	<p>・学校用地の問題は難しいですね。今現在(近々5年くらい)は増となるわけですが、それが何十年続くのか、又、何十年後に減となるのか、その地区には大きな変化だと思えます。</p> <p>・校舎を建てたけれど数年後には子どもが減っていないとかとなると・・・と考えます。</p> <p>・通学区を広げてどちらの学校にでも通学することができるのか、現状ではどうにもならなかったのでしょうか？</p>	<p>・これまで児童数の推計は、住民基本台帳上の0歳児が入学する6年先までとなっておりました。</p> <p>しかし、学校の将来計画を策定することから、5月に設置された市長をトップとする「大阪市内中心部児童急増対策プロジェクトチーム会議」において、「10年から20年程度の中長期的な将来推計の確立」と「中長期的推計を踏まえた新しい学校建設の在り方の検討」を行うこととなっております。</p> <p>・学校は地域コミュニティの中核ともいえる存在であり、通学区の問題は、児童生徒・保護者・学校に加え、これまで長年にわたり常日頃から学校を支えてこられた地域とも密接に関連していることから、その設定や変更については様々なご意見があり、慎重に検討する必要があります。</p> <p>・このことから、区役所では、狭隘化の進む学校において、関連情報のご提供および地域住民や保護者の代表からご意見を伺う場としてラウンドテーブルを設置し、学校長や教育委員会事務局も交え、学校の将来像などについて意見交換を始めています。</p> <p>なお、仮に「どちらの学校にも通学することができる」とした場合、状況によっては児童・生徒の集中が促進される可能性があるため、慎重な議論が必要となります。</p>	③
6	H29.7	<p>・子育て支援については、保護者や子どもたちの交流の場も増え、若いお母さん達が子育てのいろんな話に花を咲かせ短い時間の中で楽しく過ごされている様子にホッとしました。そんな時はさすがに「スマホ」を触っている人はいません。</p> <p>これからも一層子育て支援拠点事業はしっかり頑張って取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>・情報はできるだけ多くわかりやすく発信していただければと考えます。</p>	<p>・現在区内では5か所の「つどいの広場」と、地域のみなさまのご協力による14か所の「子育て支援サークル」が実施されています。</p> <p>身近な場所に保護者や子どもたちが集い、遊びや子育て相談・情報共有などを通じて交流を図っていく活動を引き続き支援してまいります。</p> <p>・子育て支援情報紙「てをつなごう!」や「子育て支援情報マップ」など、みなさまのお手元においてご利用いただけるものや、タイムリーな情報が発信できるホームページ・フェイスブックなど、多様な手法を用いた情報発信にさらに取り組んでまいります。</p> <p>【具体的取組3-1-1 こども相談支援・子育て情報発信による子育て支援】 【具体的取組4-2-1 戦略的な区の情報発信】の取組内容に反映</p>	①②

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
7	H29.7	<p>・西区は9割がマンションである点から、自主防災組織による地域防災訓練は学校単位でももちろん必要ではあるが、マンション単位の自主防災組織が必要と考えます。</p> <p>・マンション自体でも、災害に備える必要性は誰しも感じてはいると思いますが、では具体的に何をすべきかとなると分からないのが実情だと思います。</p> <p>そこで行政からのアドバイスとして、ハード面(備蓄面)とソフト面(自主防災組織作り)の両面をお願いします。</p> <p>そのための提案として、区役所内に「マンション課」というような専属部署を作ってはいかがでしょうか？マンションのコミュニティ作りは災害発生時の対応面からの必要性を説くことが説得力があると考えますし、「マンション課」ではマンションに特化して</p> <p>①情報収集 ②情報発信(事例紹介や広報活動) ③後方支援(いわばソフト面のアドバイザー)</p> <p>等を主目的として区役所内の各担当部署とも連携できる、専属の窓口としての機能を持たせていただきたいと思います。</p>	<p>・ご指摘のとおり、区民の9割がマンションに居住されており、地震などの災害に対して、居住者が自らを守る「自助」、居住者同士が助け合う「共助」を目的としたマンション内の自主防災組織づくりは必要と考えています。</p> <p>・現在、区役所におきましては、西区ホームページを通じて、マンションや企業に対し、防災出前講座「災害への備え」を実施し、「備蓄と家具の転倒防止」とともに「マンション自主防災組織の結成」「地域の自主防災組織との連携」の重要性について啓発しています。</p> <p>また、今年度からマンション居住者が多いと思われる子育て世代が集まる地域毎のイベントを活用し、平時からの「災害への備え」について啓発しています。</p> <p>しかしながら、ご指摘のとおり、西区においては、約9割がマンション居住者であることに加え、新築マンションが急増していることから、より一層、マンションにおける防災対策の必要性が高まっているのも事実です。</p>	①②
8	H29.7	<p>・また一方で、9割を占めるマンションのことを区役所が把握していないということも問題だと考えます。</p> <p>ただ、全数の把握は困難だと思いますので、区役所からマンションに対してDMやポスティングを行い、回答のあったマンションだけでもデータベースとして区役所で把握しておき、理事長の改選時期に合わせて出前講座や防災支援セミナー等の案内を送ってはいかがでしょうか？</p>	<p>今後も、継続的な防災出前講座や防災訓練等を通じた啓発とともに、西区内のマンション管理組合と関係機関との意見交換会を活用し「安全・安心なまちづくり」の観点からも「マンションの防災対策」に関する意見交換等を図り、その後の防災出前講座につなげてまいりたいと考えております。</p> <p>・津波浸水深サイン「どうぶつものさし」につきましては、区内約100施設に設置しており、アンケートにおきましても約8割とすでに高い割合で認知していただいていることから、今後は、設置初年度から4年が経過し、メンテナンスが必要な箇所から順次、張替えを進めてまいります。</p> <p>また、その際、西区内の外国人居住者や区内で活動されている外国人に対する災害時の情報発信を進める観点から、新たに作成した多言語表記のデザインへの張替えを進める予定です。</p> <p>【具体的取組2-1-1 地域防災力の向上】 【具体的取組2-1-2 マンションコミュニティづくり(防災)】の取組内容に反映</p>	①②
9	H29.7	<p>・マンションでの防災出前講座や、防災訓練の支援回数は、区内のマンション数からすると少なすぎだと思います。</p> <p>出前する発想から逆に、年複数回、毎年定期開催する形で、区民センター等に理事長や関心のある方に来ていただく形で、防災講座を実施し、その後、各マンションのニーズに応じて出前講座を実施していく形のほうが効果的と考えます。</p> <p>・「どうぶつものさし」をマンションにも依頼し、西区内にもっと広めていくべきだと考えます。</p>	<p>【具体的取組2-1-1 地域防災力の向上】 【具体的取組2-1-2 マンションコミュニティづくり(防災)】の取組内容に反映</p>	
10	H29.7	<p>・5月27日(土)落書き消去に参加いたしました。</p> <p>四ツ橋筋の公共の物件の落書きが対象でした。</p> <p>民間のビルの落書きがひどくて、個人の物件のため対象外との事ですが、個人の持ち主の方々と共に落書き消去できれば街がきれいになると思います</p>	<p>・ご指摘のとおり、公共物だけでなく個人所有物への落書き消去活動を展開することで、町全体の美化の向上及び防犯の抑止力の向上につながるものと考えております。</p> <p>現在、地域や学校で取組んでいただいている落書き消去活動においては、税の公平性及び受益と負担の観点から、主に施設管理者の許可を得た公共施設に対し、実施いただいております。</p> <p>・個人所有物に対する落書き消去活動に際しては消去用具の貸出制度「きれいになりたい☆キレイ西隊」をご活用いただき、施設所有者の許可を得るもしくは所有者と共に活動いただけましたら、区役所もサポートさせていただきます。</p> <p>今後も、地域等のみならずと連携しながら、さらに効率的・効果的に落書き消去活動を展開できるよう取組んでまいります。</p>	①
11	H29.7	<p>・高齢化比率の低い西区ですが、人数的にはかなりいると思います。</p> <p>その高齢者の人たちが半世紀にわたり地域の発展に寄与してくれた方々であると思います。現在もその方々がお互いに支えあっています。</p> <p>しかしながら、60歳以下の方々にその人たちがしてきた事を引き継いでくれる人は皆無です。従って今後10年～20年すればこの手の施策は続かなくなる。</p>	<p>・ご指摘の地域福祉活動における担い手の問題は大きな課題と認識しています。</p> <p>・福祉活動の担い手を増やすためにも、現在の地域の皆様による活動を多くの住民に知っていただき、協力を得るため、区役所としても広く周知していきます。</p> <p>【具体的取組1-1-1 地域に根ざした活動への支援】の取組内容に反映</p>	①②

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
12	H29.7	現在実施している人権展は、職員の研修等で活用されているのを聞いているが、一般の市民区民の参加が少ない。もう少し、一般の方が足を運ぶような内容を検討されたい。	<p>・人権展につきましては、浪速・西・港・大正区の区民の方を対象として、4区共同で開催しております。</p> <p>平成27年度からは、民間の専門的なノウハウを活用して事業の集客効果を高める目的から、公募・提案型の方式により業者を選定しております。</p> <p>平成29年度につきましては、子育て層など幅広い層の方に人権問題に関心を持っていただくため、子どもの貧困問題をはじめとした子どもを取り巻く問題をテーマとしております。内容につきましては、講演やコンサートなど、多くの方に参加していただけるような企画にしていきたいと思いますと考えております。</p>	①
13	H29.7	<p>・区内のものづくり企業やクリエイターで町会加入率はどれくらいか？</p> <p>特に「にし恋マルシェ」等の出店者は他区から来られる方が多く、どのくらいが地域に浸透しているのか？</p> <p>地域は町会加入の促進を区役所に希望しているのに、肝心なところが主張できていないのでは？</p> <p>今の状況では双方が連携協力しているようには思えない。</p> <p>・クリエイターや企業等の方々と地域が意見交換できるようなラウンドテーブルを開催してほしい。</p> <p>互いの関係作りが必要と考える。</p>	<p>・最初の問いにつきましては、ものづくり企業やクリエイターの方がどこにどれだけおられるのか判別できず調査ができないことから、どれくらいの割合で町会加入されているのか把握できておりません。</p> <p>・「にし恋マルシェ」につきましては、堀江・高台地域の公園などの地域資源を最大限に活かし、新たな住民と地域や地域商業者が接点をもつきっかけづくり、「交流の場」を目指して平成25年度より開催してきました。</p> <p>平成28年度からは、堀江地域活動協議会、高台地域活動協議会、堀江の会、堀江立花通ユニオン、ホリエ・マルシェ・ウヴェール実行委員会、西区役所の6者で実行委員会を組織して開催しており、出店者につきましては、堀江・高台地域の方々となっております。</p> <p>・内容については、開始当初からの目的である「交流の場」となることを目指し、参加される方が地域コミュニティに関心を持ち、この日だけでなく継続的に地域交流・まちづくりの機運を醸成するような中身にしていきたいと考えております。</p> <p>・ご指摘の通り、地域活力の向上や地域課題の解決のため、地域団体・企業・クリエイターなど区に関わる様々な方たちと区役所とのネットワークを構築し、意見交換する場を設けることは重要なことであると認識しておりますので、ラウンドテーブルの開催につきましては、今後検討してまいります。</p>	③
14	H29.7	<p>・スポーツに焦点を当てたイベントが少ないように思います。区の大会や市の大会はあるのに、障がい者、高齢者のスポーツイベントを目にするのが少ないです。</p> <p>スポーツセンターを個々に利用する程度ならたくさんあると思います。</p> <p>・障がい者、高齢者、子ども達一同同じフィールドで何かできればすばらしい教育効果になると思うのですが、このような事は難しいのでしょうか？</p>	<p>・西区役所の取り組みとしては、コミュニティ意識の醸成を目的としたスリーアイズ大会のほか、秋には「体育と防災のつどい」など区民の健康増進や防災意識向上を目的とした取り組みとして気軽に楽しめる機会を設けています。</p>	①
15	H29.7	<p>・区政会議の委員は多いと思いますので、分野に分けてやったらどうですか？</p>	<p>・委員の活発な意見交換に対するご提案ありがとうございます。</p> <p>現在、資料を事前にお送りするとともに、委員より事前にご意見をお伺いし、それに対する西区の回答・考え方を会議開催前にお送りさせていただくなど、会議時間を有効に活用し、多くの委員の皆さまにご意見をいただけるような工夫をしております。</p> <p>・また、分野ごとの会議開催という観点では、区政会議においてテーマごとに「部会」設置が可能です。</p> <p>一方で、例えば「教育会議」など、西区における特定の課題解決に向けてご意見をお伺いする場を別途開催していることもあり、今後の検討課題であると考えているところです。</p>	③

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
16	H29.7	・バラ祭について、地域の人参加してもらう方法について考えて欲しい。	<p>地域資源を活かしたイベントのあり方については、多様な活動主体と地域が連携協働することで更なるにぎわいづくりに繋がるよう、協働事業の仕組み作りを検討していきます。</p> <p>【具体的取組1-3-1 多様な活動主体のネットワークづくり】の取組内容に反映</p>	②
17	H29.7	<p>・広報の件、ポスティングについて、希望者が増えたときのコストはどうするのか？ その経費を別の事業に使えないか。</p> <p>・例えば夏祭りとかの際にラインで友達を増やすなど一度登録すればずっと使えるような取組をしてみてもどうか？</p>	<p>・広報紙の到達可能率を段階的に80%に近づけることをめざし、ポスティングや配架先の増加に向け積極的に取り組むため、平成29年度の予算においては、ポスティングの増加分を見込んだ形で計上しております。</p> <p>・西区広報紙デジタルブックへのアクセス件数は他区に比べて非常に高いものとなっております。毎月1日広報紙デジタルブックへ誘導するお知らせをラインにより配信していることが一つの要因と思われる、委員ご提案のラインの友達登録は有効な手段と考えております。</p> <p>・昨年度の区民モニターアンケートの結果をふまえ、現在はポスティング等の増に取り組んでおりますが、人口(希望者)の増加に伴うポスティングのコスト増の課題やラインを含むSNSの活用など、さまざまな要素を検証しながら取組を進めてまいります。</p> <p>【具体的取組4-2-2 戦略的な区の情報発信】の取組内容に反映</p>	①②
18	H29.7	・区役所の自己評価に対し、委員の方からの意見との相違の分析はできているのか？	<p>・運営方針の達成状況(資料3)につきましては、各年度における運営方針に設定している成果目標に対して客観的に評価可能な数値に基づき評価し、事業が目標どおり進んでいるのか区長自ら評価するものです。</p> <p>・一方、委員の皆さまからいただいた評価につきましては、区役所からのサービスの受け手である皆さまから個々の取組みの成果に対して評価をいただき、今後の改善に役立てていくという趣旨から実施させていただいたものです。</p> <p>・今後は、具体的な評価理由等をお伺いすることにより、課題を共有するなど、区民の声を反映した区政運営を進めてまいりたいと考えております。</p>	①
19	H29.7	・マンションの防災出前講座やにっしー広場などについて。子育てされているお母さん方に周知されているとのことだが、マンション理事会や管理人に対する案内は5年間で一切ない。	<p>・「防災出前講座」、「にっしー広場」共に、開催を希望される方からの要請に基づき、職員を派遣し実施している事業となっております。</p> <p>・この間、「にっしー広場」につきましては区ホームページや広報紙をはじめとした広報媒体を活用し周知するとともに、乳幼児健診など、区役所にお越しになられる機会などを活用し、当事者である子育て世代の保護者に対して積極的に広報に努めてまいりました。</p> <p>一方で、委員からご提案いただきましたマンションの管理者側の方々への周知でございますが、マンション管理組合と関係機関の意見交換の場などを活用させていただき周知を図ってきているところです。</p> <p>・今回委員からご提案いただきましたように、広くマンションへの周知が届いていないことに対しまして、改めて区役所としましてマンションの属性などを把握し、情報を有効に活用できるよう整理を行うことを考えております。</p>	①

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
20	H29.7	・マンションのコミュニティづくりをどうやっていくのか、踏み込んでいただきたい。 マンションに重点を置いて取り組んでいただきたい。	・マンションをはじめとした地域コミュニティの育成は当区の重要な課題であります。 特に近年高層マンションをはじめとした多くのマンションが建設されていることから、マンション内の新たな住民同士、また地域に既にお住まいの区民との交流が重要な課題と認識しております。	①②
21	H29.7	・マンションコミュニティの問題について、マンションの管理会社を行政指導するなど、教育してもらわなければ難しい。 ・町会加入は法律化されていないので、管理会社も住人に対して(町会加入は自由だなど)言えるのではないかと、もっと強い対応で行かなければ追いつかないと思う。	・これまで、マンションにお住まいの皆様には、「防災出前講座」や子育てのひろば「にっしー広場」を通じてコミュニティの大切さについても啓発してきたところです。 人と人とのつながりづくりは、福祉や防災の観点からも非常に重要であることから、マンション住まいの区民の皆さんをはじめ区民の誰もが身近な課題として気づいていただけるよう「防災出前講座」や区民の皆さまが多く集まるイベントなど様々な機会を捉えて啓発してまいります。 ・特に、マンションに対しても身近な単位である町会・自治会などの重要性を伝え、つながりづくりに対して支援してまいります。	
22	H29.7	・町会の加入促進について、条例化するなど、市、区のと組としていかなければ町会活動が立ち行かない。	【具体的取組1-1-1 地域に根ざした活動への支援】の取組内容に反映	
23	H29.7	・町会加入の促進についても将来ビジョンで触れるべきであると思う。 町会加入の促進が置いてけぼりにならないように。	・今年度策定を進める新たな将来ビジョンにおいて、地域コミュニティの活性化の取組みの方向性として、人と人をつなぐりづくりのための支援は重要な取組として認識しています。 具体的には、町会・自治会などの身近な単位をつなぐりづくりのための支援が必要と考えています。 【具体的取組1-1-1 地域に根ざした活動への支援】の取組内容に反映	①②
24	H29.11	地域で生じている問題 ・表向きは賃貸のワンルームマンションということで建設が増えてきているものの、中には民泊として利用されていると思われるマンションも出てきている。 ・マンションの多くがオートロックであり、管理人さんもおられないなど、情報が得られない。 ・管理人さんがいる場合でも1年で代わられたり、役員でも任期が切れて代わられた段階でつながりが切れてしまう。 こうしたマンションが増えてくると、町会加入の取り組み自体ができない。	マンションの形態にもいろいろあり、対応策も異なってくると思われます。 ワンルームマンションや管理人が常駐していないマンションなどについては、コミュニティの必要性を伝えるため、どのような取組が出来るか、他都市の事例なども参考に今後検討してまいりたいと考えております。	③
25	H29.11	人口が増えているのはマンションが増えていることからこのことであるが、そもそも行政のほうで予測できなかったのか？ 予測できれば野放図なマンションの建築をコントロールできたのではないかと 東京ではワンルーム規制条例だとか、開発指導要綱などにより行政が責任を持って管理されていると聞く。 将来ビジョンにつながる話でもあり、今後西区をどのような街にしていくのか、そういった観点での考えも必要ではないか。	現時点で大阪市内における開発に制限をかける方策としては「地区計画の指定」という手法があります。 ただし、地区計画の指定に際しては私人の財産に制限をかけることとなることから、その規制目的が合理的であることが必要とされるなど、ハードルが高いものとなっています。 具体的には地権者の同意(法定では3分の2以上であるが、大阪市ではこれまで全地権者の同意を得るよう努めています)を得た上で条例での設置が必要となっています。	④
26	H29.11	マンションの建築規制などをするにしても区だけではできない。 市の動きはどうなっているか？	一方で、人口の過度な集中になりつつあることから、市全体の課題として問題提起は必要と考えています。	

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
27	H29.11	マンションにおいてコミュニティづくりに繋がる取組みなど他の事例についての情報提供や、コミュニティを作る時の手順、マニュアルなどの作成をお願いしたい。	マンションのコミュニティづくりは非常に重要であり、今後、中間支援組織も活用しながら他都市の事例など参考になる取組などの情報のストックを進め、必要に応じて情報提供できるように取組を進めてまいりたいと考えております。	②
29	H29.11	自主防災組織であらかじめ役割を決めていても、昼間は、働いている世代はマンションにいないため、誰でも即座に役割分担を決めてあられるようにする必要があります。集まった人に役割を記載したカードを渡し、その場で分担を決める「全員集合カード」というようなマンション版の取り組みが必要。カードの作成・取り組みをしていただきたい。	<p>・災害発生時には、自主防災組織において初期初動が非常に重要なものとなります。</p> <p>さらに、この初期初動を行うためには、あらかじめ各地域における防災計画の策定が非常に重要なものであり、地域やマンション単位で必要に応じて役割分担まで決めておいていただく必要があります。</p> <p>委員のおっしゃるように、役割分担を決めていたとしても、常に人がいるわけではないという事態は当然予想されますので、人がいない場合の対応も含めてあらかじめ2番手、3番手の人の設定などをしておいていただくのが望ましいと考えられます。</p> <p>ただ、分担を決めていたとしても、非常時に対応するには日ごろからの訓練が重要となってまいります。</p> <p>この役割分担の決め方について、「全員集合カード」のようなものを作成してはというご意見ですが、これをもって自主防災組織の初期初動が磐石なものとなるものではございません。</p> <p>しかし例えば 「防災計画を居住者の多数の方が認識・理解している」 「備品や機材の配備がなされ、どこに何があるか、誰が見ても分かる状態にされている」 場合には有効になると思われます。</p> <p>なお、初期初動において確認すべき内容は地域・マンションの状況により変わってまいりますので、個別の対応方策のご相談として、区役所の防災担当までご相談いただければと思います。</p>	①
30	H29.11	九条北は戸建てが多く、昔ながらの町、つながりが残っている。 町会の活動へのつなぎとしては、PTAとつながりながら地域の活動へつなげていっている。 そういうように、地域活動に導入する術があれば、つなげることができる。	各地域の特性により効果的な取組のあり方は異なると思いますが、ご提供いただいた事例につきまして、今後のつながりづくりの活動支援の参考とさせていただきます。	①
31	H29.11	<p>・子ども子育てプラザでは14地域の子育てサロンに訪問し、その際に若い世代に防災の話などを行っている。防災の取り組みに小さな赤ちゃんを連れて行くことは難しいという意見がある。</p> <p>・プラザに来るこどもの2/3は保護者が昼間不在である。その様な時間に災害が発生した場合、逃げ込む場所が必要。こどもが逃げ込める建物を指定し、ステッカーを貼るなど、災害が発生した場合の取り組みができると思う。</p> <p>・見守りについても、手法として、門灯による判断が可能と考えられる。夜になればあかりをつける、朝には消すということにしておき、もしついていない、消えていない家があった場合、訪問するなどの取り組みも考えられる。</p>	<p>【防災について】</p> <p>・西区役所では、今年度は、子ども子育てプラザ主催の防災出前講座において「こどものいる家庭での災害への備え」をテーマにマンション居住者に対する防災講話を実施しました。乳幼児をお持ちの家庭の防災訓練への参加は、ご家族の避難訓練ばかりでなく、日頃からの地域とのつながりづくりという意味からも大変重要です。</p> <p>・また、津波による浸水想定を小学生にも理解できるよう「どうぶつものさし」の表示とともに津波発生の際に逃げ込める「津波避難ビル」への締結の拡充についても進めています。</p> <p>・日頃より家族ごとの避難場所や避難経路を確認するための家族会議の実施の重要性を広報紙や出前講座などで啓発しています。</p> <p>【見守りについて】</p> <p>また、現在、区役所では、区社会福祉協議会の見守り相談室とともに、高齢者・障がい者等の孤立を防ぎ、地域とのつながりをつくるため、地域のみなさんの見守り活動の支援を行っております。見守りの方法については、それぞれの地域や対象者に合ったやり方で取り組んでいただければと考えております。</p>	⑤

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
32	H29.11	<p>こどもの登下校の際、見守り、「あいさつ」を実施している。</p> <p>日吉小学校の場合、高台、千代崎、日吉、幸町と、連合がまたがっており、見守り員の服装がバラバラになっている。</p> <p>ジャンパーやキャップなど、こどもにも認識しやすいように西区としてデザインを統一してはどうか。</p> <p>作成にあたっての費用は地域で工面する。</p>	<p>西区では、小学校区ごとに多くの地域の皆さんによって、こどもの登下校の見守り活動に取り組んでいただいています。</p> <p>区においては、地域の見守り活動が保護者やこども達に認知されるよう、地域の活動状況を広報紙や情報誌などに掲載するとともに、小学校の朝の集会などでも紹介しています。</p> <p>なお、一部の小学校区の見守り活動において、校区統一デザインのベストを作成し活動されていますので、校区統一デザインのユニフォームの作成を検討される地域に情報を提供させていただきます。</p>	①
34	H29.11	<p>西区の人口が増えているのにも関わらず、西区の予算が減少しているのが気にかかる。</p> <p>人口が増えているのであれば、それに応じた予算を計上してほしい。</p>	<p>大阪市の財政は西区を含めた大阪市全体で管理執行されており、税収は最も多かった平成8年度との比較で約20%も低い水準で推移する一方、市の借金である市債の返済や福祉サービスに充てる扶助費は約2倍を超え、とりわけ生活保護費に関しては約2.6倍に増加するなど厳しい財政状況が続いています。</p> <p>こうしたなか多様化する市民ニーズに応えていくため、職員人件費のカットや施策・事業の見直し等により必要財源を捻出する等の工夫を凝らした予算編成を行っているところです。</p> <p>24区毎に収入・支出の状況は異なりますが、大阪市全体で財政を管理執行しているため、平成30年度予算編成にあたっては全市一律に一定割合のシーリングが求められている中、西区の人口のみに着目した予算増額は難しい状況です。</p> <p>一方、区役所の予算は人口要素も加味した基準財政需要に応じた措置が採られており、他区に比べ人口が急増している西区には相対的に多くの予算が措置されています。</p> <p>こうした状況のもと、多様な区民ニーズをふまえ、選択と集中の観点からより効率的・効果的な予算編成に努めてまいります。</p>	④
35	H29.11	<p>「人と人のつながりづくり」が課題があることが新聞記事で紹介されていた。</p> <p>この取組みは、地域だけではなく、区役所もしっかりと取り組むことが必要。区役所の大きな力を住民に向けてもらうことが重要。</p> <p>地域福祉のビジョンにおいても地域福祉の中核的な役割を担っている社会福祉協議会として地域とのつながりを大事に、地域に負担をかけることのないよう皆さまとの交流を進めることが大切。</p> <p>高齢者・障がい者、こどもなどへの福祉サービスにも各地域にあった取り組み、支援をしていく必要があると考えている。</p>	<p>区役所としても人と人のつながりづくりのための支援は重要な取組として認識しています。</p> <p>多くの人につながるづくりの大切さを知ってもらえるよう情報発信を行うなどの取組を進めてまいりますとともに、地域のみなさま、こども・高齢・障がいの各分野の関係者のご意見をお聞きしながら、西区の地域福祉ビジョンを策定し、地域のみなさま、西区社会福祉協議会とともに、地域福祉の推進に努めてまいります。</p>	①

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
36	H30.1	コミュニティの形成促進について、マンションコミュニティの形成を図っていく上において、行政が直接関わっていくことが必要。 行政が関わっていると見えることが重要だと思う。	<p>・多くの人につながりづくりの大切さと、地域活動への興味をもってもらい地域活動に参加してもらえるよう、地域の皆さんの取り組みと歩調を合わせ、引き続き地域団体が実施されているイベント等においてコミュニティへの参加・参画を促す取り組みや、自治会や町内会などへの参加や加入を検討いただけるような広報を行ってまいります。</p> <p>・また、地域活動の大切さを広く区民にお伝えする際に、防災や防犯の取組み、夏祭りやフェスティバル、高齢の方や障がいのある方への見守り活動など、重要な活動を地域で担っていただいていることを引き続き広報してまいります。</p> <p>・地域活性化の取組みについて、地域の方が取り組んでいただく際のご相談などについても、身近なところで相談を受けやすい環境として、まちづくり支援員をはじめ、まちづくりセンターを活用いただければと思います。</p> <p>その中で、若い人向けのアピールなどについてもご相談させていただければと考えているところです。</p>	①
37	H30.1	マンションコミュニティの問題、人材不足への対応など、まちづくりセンターが担っていけばよいのではないかと？		
38	H30.1	まちづくりやボランティアの窓口について、気軽に相談できるような対応はできないか？ 区役所の4階や5階などに分かれていてわかりにくい。 まちづくりの取り組みについて、若い人たちにどのようにアピールするのが重要だと思う。		
39	H30.1	町会活動について、町会に加入されていない人からすると、地域の方が担ってくれている様々なボランティア活動について、中には行政がやっていると認識されている人がいるのではないかと？		
40	H30.1	遠くの親戚よりも近くの他人というように、地域を盛り立てていくことが自らの幸せにつながるということを伝えて欲しい。		
41	H30.1	区政会議における議論の仕方について、今回のように4グループに分けて議論しているが、グループに分けるのであれば、課題ごとに分けて重点的に議論してはどうか？ また、中学校区ごとのグループに分けてはどうか？	<p>区政会議で意見をいただく内容を区民の皆さんにとって関心の高い課題を中心に意見交換していただくことが会議の活性化に繋がるものと考えます。</p> <p>引続き、委員の皆さんからのご意見を踏まえ、運営にかかる意見交換のスタイルも、より最適な形をめざし検討してまいります。</p>	②
42	H30.1	区政会議における議論において、将来ビジョン全体、運営方針全体に対する意見をといわれても何を回答してよいかわからない。 個別の議題に細分化して意見を求めているかどうか？		
43	H30.1	防災対策について、将来ビジョンなど、マンションコミュニティについて大規模なマンションを対象としているのか？ 小規模や古いマンションには高齢者が多いと思われる。 マンションの実態に合わせての対策を考えて欲しい。	<p>個々のマンションの居住者の特性や実態に合わせた防災対策や訓練が必要不可欠であると考えております。</p> <p>そして、区民の皆さんには災害時の備えや避難方法の確認など防災に対する認識をもていただきたいと考えております。</p> <p>また、高齢者などの災害弱者への対応についても地区防災計画に沿って日ごろからの訓練を通じて、地域の皆さんで具体的な動きを確認していただくようお願いいたします。</p>	①
44	H30.1	地域の高齢者は防災の意識が低い。準備などできないのが実情。そうした高齢者へのケアをどうして行くのか？		
45	H30.1	マンション住民を対象とするのも良いが、公園などに来られる子育て層を対象としてはいいか？	<p>多くの子育て層が集う公園の活用については、有効であり、今後検討してまいりたいと考えています。</p> <p>なお、現在、子ども・子育てプラザを中心に区内のつどいの広場と区役所が連携して、公園を活用した保護者のつながりづくりの事業「シャボン玉であそぼう」を年2回実施しています。</p>	③

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
46	H30.1	女性や子ども、アレルギーのある方などに対する備蓄が備えられているのか？ トイレなども必要なのではないか？	防災対策については、女性の視点や子どもの視点が不可欠です。 その意味で、災害時避難所には大人用及び子供用オムツや生理用品をはじめ、アレルギー対応の食料とともに簡易トイレなども備蓄しておりますが、あくまでも緊急避難的に命を守るための物資であり、種類や個数も限られております。 各家庭におけるローリングストックなどとともに、個人や家庭の事情に合わせた備蓄品を日ごろから備えていただくようお願いします。 なお、トイレについては各避難所に簡易トイレを備蓄しています。	⑤
47	H30.1	地域コミュニティ支援の予算について、まちづくりセンターの予算を地域活動協議会への補助金にできないか？ もし地域に下ろしていただけるのであれば、その財源で地域で人を雇えるのではないか？	中間支援組織の業務につきましては、予算・決算・出納事務などの会計事務全般に係る助言等の支援のほか、地域の実情や課題に応じた事業実施支援などきめ細かな支援を行っています。 一方で、中間支援組織は地域の自立支援を目的とする組織ですが、地域の実態を踏まえ、中間支援組織のあり方について市全体としての検討課題とされているところです。	③
48	H30.1	地域活動を担うなり手がいない。 やりがい感が見出せない。 担い手が良かったと思うきっかけ作りが必要。 5団体から区・市からの支援が少ないとの声も聞いている。	地域や各団体の活動が持続的なものになるよう、誰もが気軽に参加できるようにする仕組みや工夫に関する情報を提供するなどの支援を行ってまいります。 また、地域でご活躍されている方を広報紙などで取り上げさせていただくなどにより、広く活動について周知してまいりたいと考えております。 団体への支援につきましては、団体と行政の関係を踏まえ、役員会での意見交換などを通じて支援に努めてまいります。	①
49	H30.1	地域活動協議会の補助金の基準がニーズに合っていない。 必要などころで使えない。 補助金について、地域の活動に対して自由に充当できるように、見直しの時期に来ているのではないか？	地域活動協議会補助金につきましては、補助要綱に沿った運用が必要となっており、その使途が定められているところです。 しかしその使途については、地域活動の各般にわたっており、地域の実情や特性に応じた活動に活用していただく様、活動内容を指定せずにご自由に、具体的な活動内容は、各地域活動協議会において選択する仕組みで交付しております。 限られた予算ではありますが、地域活動に有効にご活用いただく様、お願いいたします。	⑤
50	H30.1	防災の問題について。 大きな災害などを想定するとコミュニケーションが大事であることは分かっているが、地域の町会加入率は4割程度である。 地域としてはマンションの人とのコミュニケーションが問題。 いざという時に対応できるか心配である。 町会がどこまで責任を持つのか検討が必要。	マンション住民が9割を占める西区においては災害時に自主防災組織を担っていただく地域とマンション住民とのコミュニケーションを図ることが安心なまちづくりの基本です。 引き続き地域の皆さんにはマンション住民の多い地域特性にあった自主防災組織や防災訓練をお願いするとともにマンション住民の皆さんに対しては地域が担っていただいている自主防災組織との連携の大切さや、地域防災訓練への積極的な参加を啓発してまいります。	①

※分類

- ①当年度(29年度)において対応 ②30年度運営方針に反映または30年度に対応予定
③30年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可
⑤その他